青楼色唐紙

13
468
2

13
468
2

遠へ
門
號 4685
巻 ノ

青楼色唐紙巻之二

○并三面

二人の仲同うもろ時ハ其利あと合ハ断とうゝ。さ
る[illegible]ハ三寿唐松ハ張ぶ[illegible]関るの際[illegible]
見ぬ[illegible]て言ハ世。仲の町[illegible]ハ楼のこゝ[illegible]
[illegible]屏風ハ[illegible]ひても長口[illegible]言ハ並べ

ゑてる者数と通家既にその日もいつう寄て成の
時ふ迄くるりね女房お母ハ二階ふ来り　モシおい
らんへ。ハ三さんハまゞ蔵て寄ちめくるさいまゝ
　唐松きゝてもこんなん。夕べけていつそ眠いさ。先
刻ちら孫ゞてだうわり孫さうもよ　よりハ睡
んるさふまゝう孫ゞり見ゑ。そんなまげ。るとむ
ゞ出ましハ。ゑんりの出ましとも寄ハ。ハ
入つまゑい体よ　唐松ヲヤ。とハ嘗のるゞまのハ

ゆく　ハ三　唐まゝさんハ同じ出でも蜘蛛だらう　唐松
モシ多ゞあらつまゑもくゝいのゞ子。ハ三ハ　たちゞ
ゑゞこうふるよ　唐ハ　ハ三ハ蜘蛛ゞまハい　ハ　ゑゞ　唐そ
いこ豆ハつけくまちら　ハ　ちげハ孫ゞを巣ゑいつうと
ちうくまるこ。多ものハ　ゑるゑつけられくゞどれゑ
あゑハ。ハ三ハ花瓶の脇ハ　唐ちつく張ハよ。者
備のハ居いくものゑちら携つく出る者の行と嘗。
千迫舎の豆ハハ蜻蛉の巣ハ素てハ一扇を流ちうハ

ヒ さんざん色るしごとよく彩でいる悪 ヒ いろと主用手
ん。ちゃとこゞもつせん。ヨヤおぬしさんまごそまやよおのくろ
ヒ おゆーゞ面白うございまくろ。耳心しそまて
ばりまくゝ。モシ一つ上まの世ろう ヒ そうさの。熟くあく
一盃ばかり世ろう ヒ 葛かまいます。たトりくゆん。狐ろく
酒貴公持まり ヒ 一ツめ上り ヒ モシ。ろうおざい神
ストびゝ公まく ヒ いろでもにさコウおぬしさんこゝのく
と付て貰ひてく ヒ よろうおぬよ。つけて上いそいト。

煙草をのみて ヒ サア。唐琴さんでやあ
の天どうあり。たらう ヒ いまりで猫にやろう
張りまいたけ ヒ 十二唐琴さんも来ていろう
ヒ おれこゝまでおいとこるゆ中ゆびが残ものくいるあく ヒ
指を。怪ーやう強く血ゞ流いく。ヨヤどうあるれ。たた ヒ
いま猫おひつわまく ヒ ぶちとき世ろしていくゞ。
そんろう毛琴さんもせうちのくゝ。流ろのろう
チトびつくゞ ヒ モシよく来さまいこでもあるめく

ひとつはぎこいせう　図　外のみにまだれて　問　えんざまたく　唐　問　ひらく　対　すきぐら
た　鎌　めへ　唐　るにくえんざまたく　唐　問　ひらく　対　すきぐら
ヨつちぶのこはで　赤のくらう　大　新　ふ　雪　ふ　ふるにあつくい
るまー　図　何　ものいとれく　実　にうら　琴　さん　出　山　長　人　意
ま　稲　くせ　唐　雪　そんるそこへよ　ふ　ま　ぶ　園　猿　魚　の　え　さんが
唐　ヨ　ゃ　ごまあ　ぐん　ま　よ　図　るにサ　情　所　の　言　ホ　さん　の　ま　を
ごろう。ゴウいろ　が　ま　る　集　ふ　ら　あ　い　ら　ん　ホ　問　で　お　い　ら
が　長　ま　幕　が　ま　り　て　ま　ぶ　せ　返　礼　に　唐　あ　ぶ　た　う　あ　ま　ぶ

お　ま　ん　ま　ま　の　ま　ま　め　へ　図　ま　ぶ　唐　ぬ　ー　に　ま　く　ま　ま　せ　ま　こ
切　ま　ま　ー　ま　ま　ま　が　あ　ま　ま　こ　い　ま　ま　図　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　の　唐　そ　ん　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　図　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
え　ん　の　ま
つ　て　お　ま　え　ー　。　ぬ　ー　ぶ　戯　言　ま　ま　せ　ま　ま　ま　。　ま　ま　ま　ま
き　ぶ　ま　ま　ま　ま　ま　唐　ア　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　い　ま　ま　ま　。　何　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま

唐[illegible]家[illegible]たゞるを[illegible]屋にいんせきう寄っねで
[illegible]たきに寄まり。そして[illegible]後家さんが寄つせんを
やア。仁三さんい志多家の[illegible]人さんが遊へふ来ゑ[illegible]て。
けさ[illegible]敏ちまつたまく寄[illegible]ゑんせんろう。[illegible]りいせんといって
おりゑ[illegible]たゞ。きんぐいゑい。何さうくさびよ敏ーてえ
[illegible]ふさう[illegible]から。おゝくさちも義界の身の上で。
まいも幸いも[illegible]ぬして居るゞら。何も歌同士の寄
に[illegible]ねで。まもくよんでおくれ。実に居ゑんまと

おりつて言ゑまとゞいる多くゑんふ敏ーヤ寄ーた
といつと。きんぐそんろうゞらうゞに居ゞらう。一旦敏さ
ゞスモのおゞん因縁出年た。義屋も笑ておれ。[illegible]ふ
ふあろうゞみろうろう。[illegible]の義も笑て[illegible]て[illegible]といひえ
したゞ。後家さんい一節ふ友だち元が甚稽ろふいろ
てゞつぎに来ゑ[illegible]たつりでさつたゞ。さうゞゑせゞ。
ゑにサ仁三さんい外ふ住つ寄寄処へろいせんぱ[illegible]
外へ上らつま寄位ろう。老へ婆ゞまで[illegible]出て住つ

あなたち孫くらいあつせんからう。それへ出方へ来さうあなた
孫くであつせう。後所をあなたごろ〳〵といつておや
ぢうれたぶ。実不外の流もみな世でとりぐく孫義をあな
んさたい。あれいきろくのたちぶつまさんの世さんごろ家
のめで。おたち流がるぐさこに来ろ〳〵に遠くかあり
せんと図そあてその男は名へ何んといつてらふあ彼ろ
図いく名へ何ともいつあなたち孫ぐわてたみのふ亟級
の組織を長て長ろと年へ世ヒモで脊の言へ図ウ

それあなち酒の者でもあぐちでも孫くエ人のあ年元の心
易ひ且れぐ二図それでも。一あさて図そうさ。そう安ア
外へ到深んで強くんぐろ。肉の位ろ公ゆて業のどく
さに恒をつりで丸ねてあくんあとうたのごらう先
何れの乃恒ならう図マアよのあたへ唐ゆ〳〵白川さん
の位三身さんれ似て。恒らうとのひ出さうあるて留
ても吟つあなち孫くよ図今夜ろんご酒られてろうまる
だらう。出ろ無お頼りと頼そふあなて出ろ〳〵のうちさぐ
きまろうとあるべ〳〵

唐のう一つようおつせう 陪おいらん（はすーうん）酔づ
ゑもとすろふあをとハ 臣おろぐ（おまい年れ徒者ゆ）ちや
ア通へ（つうじん）ごのふ 陪よろもくやておんるー 臣ゑんるよ 粧（せ）
落ぢ者ア 陪へが 臣おひらんの形造ゆかりるまさのめくせ
唐ゆーの買ふ女郎小社おいらんもるまさのぐま
ま 陪へ 臣ア ゆの一盃ぐるまさのぐらう。強のろ哥了。
耳の根に 陪ぢ 臣ちのあるぐ 陪 須城いぞいつくのめと 臣ゆ
ゆれといふあうだの 陪よく 臣ゆ 陪ちつせへさと。

モシそのおいらんゑんでおくぐゑん～ 臣ゑんと 唐おつことあ
てくゑんいちゑう手 臣あるのめく 唐 柔めでちつ 唐ゑう
臣 張つく 陪子。ゆりいーたらう 臣大ぐれ。萬事ぐ
陪うと 臣おつゑんゑんー。ぬーゆ 徒衣さんがゆ好ぐろ。
秘手ハお 通ひのゑうざまーさぐ。いろ好にゑんく
ちくのの 臣あれハちくこ柔 陪を 臣に上ゆーくろう。
かぐされて森ずに 臣ちまゑ。だらうと 陪つて。後
衣さんがお通ゆゑんーたとさ 臣怖ちの邪まのを 臣

のゝごとくといふ。女房り来て又重成は[illegible]
てまより唐松さくらくゝもさるぐのゝくあれども
たゞのちにはあるちぎるのかるくまもぐくしく
もぐぬやぐて仁そちはそもくに去ゆ出そうろう。和仁三郎
へ都内の貴尾そもむづかし。三郎生入の屋敷ゆ。彩
保穂痛といふ人仁三郎とゝ藤て新意ろうけうぶ。
その人の縁言まそるくゝ治りしゆ。老角朝芳に尾
松ゞゆ云られず。祝父の新も仏壇の本ゆさゆも。
唐松ゞ面ざゝに忍れ眠とゝ芳に入て操言京
も寄まるくといふゆ。扨ゝ母に呼び新されて。唐松

とゝ仏のくと風れて。迎仁八景の芳ゆ入しゆ。唐
衣の一松ゆ強める朝ゆをうゑど。ひ移らずど
ゆ中ゆ入。涙で夜雨おて。あゆ[illegible]とのゝ悔け。一時
かの新代ゆ方より。ゑまつゞゆ新章送り越しゝる
あで。嘉八さや有頂天ゆ入て。寄けべ古祥天
さ面に翻りて。一時も関に居られず。急花撲町の
芳ゆ。ゆゝ家屋と乗せ。彼如ゝ入りて。
のゝごく。女房お芳ゆ世話厚きに。彩遠唐琴が

如なる紅幕うちよせて。永代橋まで出る。の夜の深
見より数面ちのびゆしていよく深く。まろく〜
見え。漆膠の繋りは翼の毛も強きゆえ見らざる
ごとくなりぬ。実に親族集まる。傾国の色より
婦人は一通りの客人とぼれて。黄金費あてさく。
面白きの云上にて。乗〜と見え始めのごく深ふ
あり共共にて。彩のごとく傾城が自
らんの座をあしして。間夫色男と呼さるて。人目を

ちのびて繋ぎ乗の中に乗〜こそて。祝ちも
知らぬと彩る見に逢ひあるくさ色ぬく勢いつとあ
間夫かまぶと深えの水の三筋川鳴呼それいろ
に。ちん。ちん喜見城とひとこと消ぶ色らびされ
どこに彼川析に。傾城の深く藏の座敷が漏
ぬ。とあ情らべの一句あり

○第四回

太ほどに仁三郎は毎日毎夜に通ひつめて祖

夢覺まして生涯を一生に実家へ入けり。結れども
唐松が新合のあれ時は太風ふ後家ぐりと行て。
唐まつと云廊下をどにく逢そも逢ふ者ちね
ちりのミちるぶ。手取のに三年ちれば強ちく後家
を迷ひて関ふまと云尾まつと二世の契約をう
ちぶ男が好て金持ちれば。貧ちれ色男後あちん
新婚ぶまで。大きに豆腐りて傾く。数田是ん
せーーちども。更に男ひざりけるあぞ。是非に及ばず

動ん義ちけ五ば多代や入魂方遠ちおくて夢まれ
ち金ぶ濃ち日だちに。強ちちく半ひ長せば後
にに人ばらしきさ面にちり。接ちく唐松と角
強するに。まづ化粧坂の強ちに根岸といる所ふ
借家して変へ住居と名のまて廊中へのミ入
込しぶ例の通り新代変く変くゆけども今ぶん
ぶう更ーー気と受て新ーし高情ふ里の繕ひむ迷
ぶちて取持も。何のち別るるぶ新らひに唐松

い氣味のよさで。さ蔵くに前〜式八夜具などを
をたたんでうつくしせう〜〜の立面〜て茶屋
が拵へその解をゝ。に三弟が少さひとゝ。後が
ばくゝて。なが労しゝ。後い髪をうくあるひ
美ひ。更に国彩の男とられば形をふ角まとも
とものぐに。智恵が拵て仁三弟を助けたり。あり
る仁後妻八郎と云ものちねば。只仁三弟が蔵金を
いとまうくあるひ。いろく〜なが〜法と見

て金銀をまうらくゝ形くよひみゆまひ
くせうくばくゝ送り。あるひい茶亭の借金を
もあいくゝあるづけたり。初て労ひたりとうば。
まられば後ばれもまづ通りとうりて後い神の所
へ出られば病事といふ遊所とひして閑蕃
け見ば。是も形をうり初ひ色と妹唱妓件見に。
あるばいの走げ。是ゝ。あひんとうひてまりく
にづゝてめとうゝばば。是を仁三弟り

おくりけるとても。うい泡ふくむづうーくだこ
所ハこちらの所歩られ。おりて向へそ逸つまず。うち
ず。さるぐ出て所所痛めけり。邂逅錦あがど
きこれ客ありても。仁三郎うちでいとろふよう。た
い自らいろ一まと出まこ仁三郎ゆくたく若男
すうのハ。自慢を人も知ゆくよ錦ゐるどありく
そのるの所言いいぐ行ぐ。ちち脱だちて辛ひ
つ。只生仁三郎に生まよりハ。暴ふ所を表

ふあうふー。のちいかくさだ出れうぐまと詰
ちちていむーんの食も。まよれ方わうしも。
れゲあわに機嫌の所ととめて頂きねうう
わ主復せて。切て喜まふるどせーわゆく男
にる客ハ人もうく。かうさまのにうろう
けり。実ふ見言ふの手ハ若のたのとハいま
ぞ身ふ方雨ろうの。洞よ油とまぶうるど
墨下基生再現彼。夜真ハ。近代産ゲ動

静かにうのとるく[illegible]ちゃ一日ともだちの
某の所に来だんのの[illegible]ーありて大勢
集り。聽てきん中も[illegible]ひけるに（人は三十ばかりの[illegible]男さうな書
[illegible]）[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜具 ゝて大郎掛だたらう 姫 ヨヤいそぐ極 廣重
おもしまきん出るおあつらひのぜんめん物
かろくういくのうひまつとあるをまねだして一ぺん
このぞ物ゑくしくゑ姫ぐらどちらのもゑ
ねくといふをぷうちぐ見るものにあの人の
かゝ子ぐあり中也。其処へたのんでむりに画
贋とうに出て貰ひまつたまつと楚国人の
さはりとひけい物よ丁子東北嵐ぐ見ぐ

いりようぐ買ひにゆく油所まて
見物で。主てはつゝ女あつこと 夜具 トレちとたゝ
けん トレたてのうちゆとまつへ
廣重 ゑとまれたて 姫 狸八きんちよつと姫
さとうとう 廣重 ゑんこうのちに笑毋右ゑうトいふ
たてたちまるゆやけんゑん 姫 ヨヤ主のゆところ孔へうんくこの
行へおゑもわんさ子。嫁仕録とこてあり神
孫へ 姫 ヨヤトそれい亦物の一ぺんさ 姫 主の
京はゝ一の紀女香もうく 廣 これサどうと

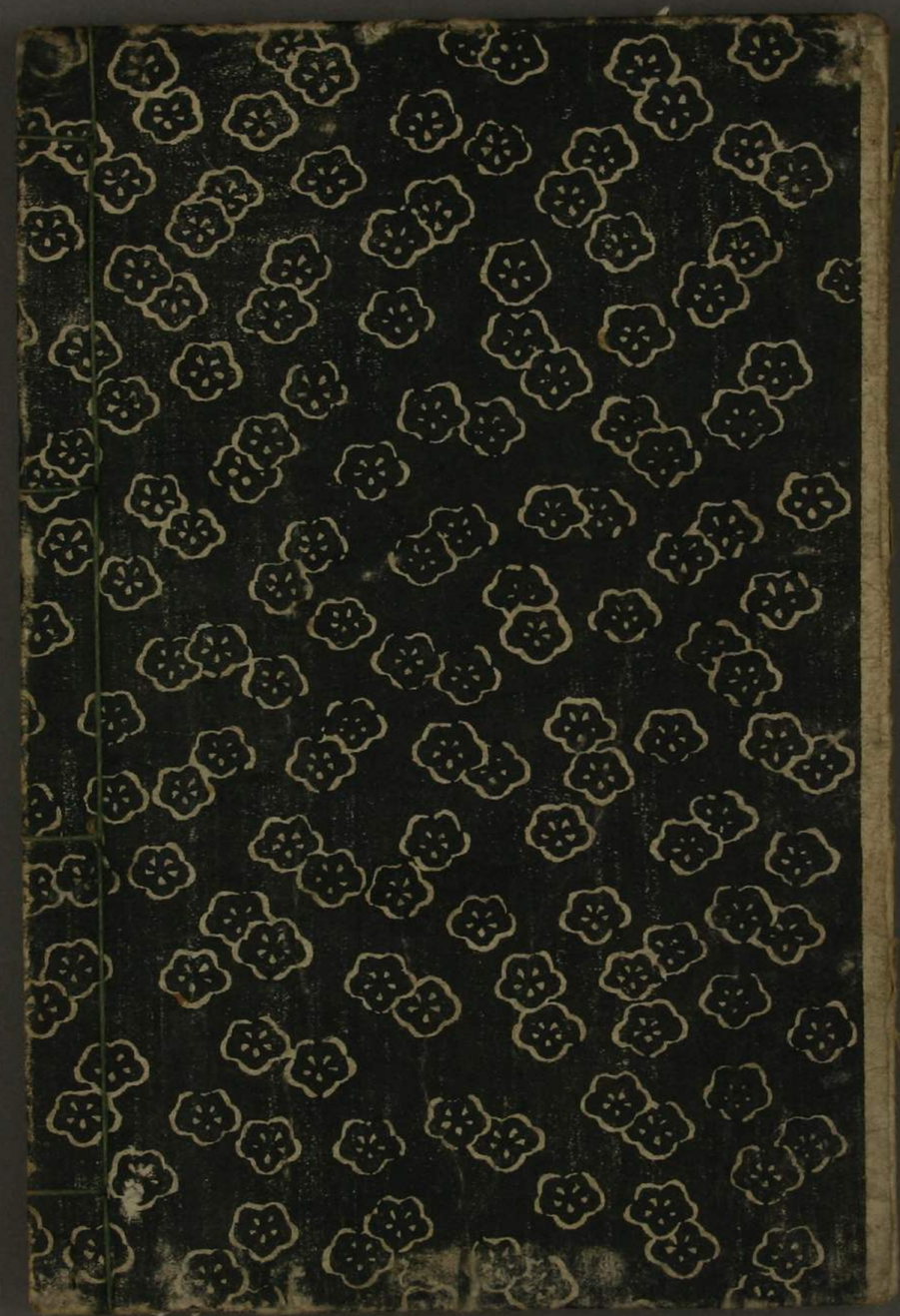
[illegible]ちく三て地くを。時にお[illegible]さん金
にあ[illegible]ちきうふくとあつく[illegible]ぶろある
きえ[illegible]くのてさのつ[illegible]の間てそ
てものちてそひもく地位ろ 圖 [illegible]ものおすくさん
にきろおろうち平ろうろ弱くひぶまるへ 圖 [illegible]ろ
世にきさんのゆたらろう 圖 [illegible]。そろぐが長信父
さんがてくく 長猪 [illegible]まを[illegible]あいよ出前
かんとうまるとあいたつけが。あのゆ[illegible]
きの方さんやるにくく世界をして使[illegible]と[illegible]

あそおくんるまちたろう 圖 [illegible]でうのを。まてこせん
まろうち内ゆい長つろ弱くのでゆふいつゆち
うんどうーてまるまひるすりてこれどきけ
がおまくさんのろうで世界にろて 圖 [illegible]にサ
ありや。チトロけげあつく根敷志の方
にちぶん高ゆりつくいあ。それゆつい
て長具さんに殆ど[illegible]てくゆがあるぶ。まゆ家
義がそんでろにあ[illegible]ろあう 圖 その義長

さんのおぐそのかぐさんとういふ坊主
と。百まとやうをとやうだといふぶ坊ぢ
い夜具さんも知つく居て。どんなに憤さい
なきるぐらう。どうぢまでいためにるらね
へから。そのわうをべ多ぬきるやうにして上
ておくれる。廣そうサぜひもきうふやア
るらわくぐ。いろくをにつくくふうぐ
あり中ん。夜具さんいるんとういふとうぐ

ろあらわくぐ。年をとりてこだけおとりーい
あくりさうりもるく。に三さんぐ帽子もと
できる中うに。われて良乳さんや壺輪さん
るんぞよもるいぐんをとげくありやそうら。
ろふの出會を使ひに。板刷ふぐんぐろう
りくぐ。そりやアいぐ屋さん。に三さんのす
をとうくあんぐるさるぐ。そりやア泥坊どの
まとぐうりつとうもといふうちゆも。るにう

一通りのうらぬ御ぶあるゆゑにそれ
ゆゑ[illegible]さんなんを上らせくおくんなさい
孫へでもよろう。そのものご圖アレサ[illegible]ん
そといつとそそんなものあいだらう。まことに
にさはるよ。どせうどうりのく難ねく
でおくれ。ゆんにきのみれ胸[illegible]そおくれう
上氏おとといはうちのむすめひろ里ゆうわくをうれ
ゆうゆうがにそうるるへつけうまくなうやのさーく用ゑん
まているまのうち事ぞんまうくまうくおりひくの
しーるうりありーろく日くそけのぶ門ゆどそれくよまをん

いあるれとゆうりてげれ
ちやゆどたぜいまりく大さうだとゆる。此産家
づーて廣里へ夜具家ゆうりろく拵き。唐私
彼夜がゆゆおぐんまるに。夜具へうわくお
ゆーたうまて。何れまりく治る鶏肉ありと
いふまで廣里へじめ菓のどくにろふ友だち
いたゆ上氏夜はひとられくくりろう
まゆうりあるやつぶのまなをひうきそまうん

起承轉合後篇巻之三終